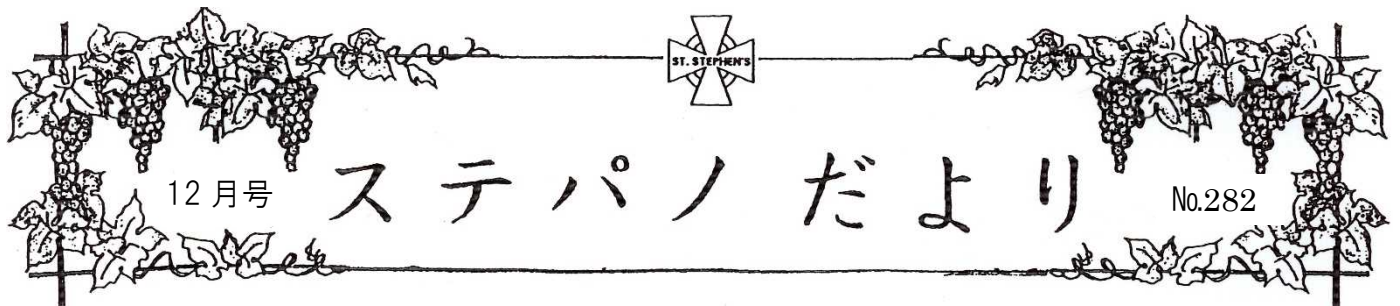




12月号

ステパノだより

No.282

今月の聖句

『いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ。』

ルカによる福音書

第2章 14節

◎ 12月の予定

2日(土) 学校説明会③

4日(月) 時間割変更期間(～22日)

校内研修会

8日(金) SAの集い

10日(日) 町民ロードレース大会(陸上部)

13日(水) 入学願書受付(小)

転入願書受付(小・中)～14日

14日(木) クリスマス礼拝

15日(金) 子どもたちの祝会、教務委員会

16日(土) クリスマス祝会

17日(日) 中郡ロードレース大会(陸上部)

18日(月) クリスマス祝会代休

21日(木) 給食終了

22日(金) 2学期終業礼拝、教職員協議会

24日(日) 平塚聖マリヤ教会演奏(ハンドベル部)

25日(月) 降誕日

26日(火) 最初の殉教者 聖ステパノ日

◎ 1月の予定

9日(火) 3学期始業礼拝

収穫感謝礼拝

11月17日、海の見えるホールにて、収穫感謝礼拝をお捧げしました。各ご家庭から頂いた献げものが祭壇を鮮やかに彩りました。また、久しぶりに保護者の方にも参加していただくことができ、神様に感謝を伝えられる礼拝となりました。



◎ 今月の行事から

【クリスマス礼拝】 12月14日(木)

8:50 海の見えるホールにてお献げします。イエス様のご降誕をお祝いし、礼拝の中ではハンドベルでの賛美も捧げます。座席数に限りがありますが、保護者の方々も一緒にお祈りすることができます。

【子どもたちの祝会】 12月15日(金)

今年度は小学校がイエス・キリストのご降誕を演じる聖劇、中学校は創作劇を行います。

15日の子どもたちの祝会では小学生、中学校の児童生徒の他に認定こども園あおばとと私塾まきばの園児さんをご招待して、小学校と中学校の劇をそれぞれ鑑賞し合います。

16日は保護者の方々に練習の成果を見ていただきます。三年ぶりに満員のホールで劇を披露することもあり、より練習に力が入ります。中学生は放課後の時間も使い、大道具・照明・衣装・音響の裏方の仕事にも生徒たちがこだわって準備をしています。

【平塚聖マリヤ教会ハンドベル部演奏】

12月24日(日)

礼拝で司式をしてくださる島田司祭からお誘いを頂き、平塚聖マリヤ教会と一緒にクリスマスをお祝いします。聖ステパノ学園のハンドベルの演奏を信徒さんに聞いて頂ける良い機会となります。

『引き出す』教育

校長 佐藤 紀明

学校での基本的な知識・技能の習得は、いつの時代でも重要であり、そのための学習はいくつかあります。ただ、普段の授業で、教師が全てを教え込んでしまうことも多いのです。例えば、板書をノートに黙々と書き写すことが多くを占める授業や、一方的な知識の伝達のみで終始する授業。そして、型にはまった特定の正解・解法に誘導する授業などです。

私は、これまでこうした授業形態で学んできました。身についたことも多かったのですが、楽しい授業とは言えませんでした。教育とは教えること、あるいは教えてもらって身につくこと、何かが分かかってできるようになること、そういうイメージだと思います。

空のコップに水を注いでいくような感じですが、教育という日本語は、諸説ありますが英語の education の語源には、『引き出す』という意味のラテン語 educere（エデュケール）と、『養いつつ育む』という意味の educare（エデュカール）からきていると言われています。

この二つの意味から考えると、教える、あるいは教えてもらって身につくという、外から中へ入れるというのは、反対の意味になります。つまり、中から外へ出ていくようにすることが教育だと言えます。

人の中には、最初から『何か』があつて、うまく引き出されることが教育になるのです。

最初からある『何か』とは、何でしょう。

私は、『自ら育つ力』、『発達する力』であると考えています。人は元来、『自ら育つ力』、『発達する力』を持っていて、それを支えながら、私達がさらに伸びていくように援助していき、それが『引き出す』とか『養いながら育む』ということになるのではないのでしょうか。

この教育についての考え方は、いつの時代にも普遍的であり、変えてはならない不易で、教育の本質であると思います。時代や環境によって姿が変わってしまう教育とは、狭義の教育、流行の教育になってしまいうからです。私達は、どんな時代になろうとも、子どもが人間である限り、この普遍的で本質的な教育の役割を手放してはいけないと思うのです。

学校は、学力をつけるだけでなく、人間関係を育む力や社会性、道徳性、健康で逞しい体力等を育む場ですが、子ども達の周りから困難・障害を取り除くのではなくて、それら乗り越えていく力をつけることが大事です。その基盤となるものを、しっかりと育み、支え、守る必要があると考えます。

古代ギリシアの哲学者ソクラテスは、アテネの街角に立ち、若者達に様々な質問を投げかけました。若者達の信じる考えを正しいものと仮定しながらさらに質問を続け、自分の説の間違いを若者達に気づかせる教育法を編み出しました。これは『産婆術』とも言われますが、まさに『引き出す』教育の原点で、現在の『コーチング』に繋がっています。

私達は、「あなたには無理」とか「リスクが大きいからやめなさい」などと口にしちます。でも、無理とかリスクが大きいと決めつけてしまう根拠は何なのでしょう。か。「頑張ろう」

「頑張ってみよう」とする子ども達の可能性を潰してしまいます。『ネガティブな言葉』を言い続けられ、子ども達はますます自信を無くして、挑戦することが怖くなるのは当然のことです。大事なことは、「大丈夫」と信じて、見守ることだと思います。子どもに何でも自分で決めさせたり、失敗した時にはプラスに考えられる言葉をかけてあげる。成功した時は子ども以上に喜んであげ、どんなことがあっても、絶対に子どもを否定しないこと……これが私達の取るべき姿勢だと思うのです。

どんなことにも「行動してみなければわからない」と勇気をもって欲しいです。『ダメ』な人間など、一人もいません。人は、良く知らないのに一方的に「ダメな奴だ」と無責任な評価を下すことが多いです。そんな言葉に負けず、行動して見返して欲しいのです。

大切なことは、成し遂げた結果ではなく、「挑戦したか否か」「やるかやらないか」です。確かに結果は大切です。でも、その過程の「やること、続けること」が何よりも大事だと思うのです。私達がなすべきことは、失敗を重ねながら子ども自身が本当にやりたいことを見つけられるよう、子どもの「可能性を引き出す」ことだと思うのです。持っているものを奪わず、自信をつけさせ、育みたいのです。

クリスマスにまつわるエトセトラ

教諭 赤田 祐章

キリスト教で一番大切な礼拝は、クリスマスだと思われがちです。実を言えば私もそう考えていた一人です。救い主であるイエス様のお誕生を祝う日なのだから、当然だと思っていました。12月になると街がクリスマスの雰囲気になります。イルミネーション・パーティー・豪華な食事・ケーキ・プレゼントなど……。教会に行かなくても、クリスマスという言葉だけが独り歩きをして、ただ嬉しいだけの日になっています。

現代社会に生きるわたしたちにとって、この世に生まれた(お誕生日がある)から、死ぬこともできて復活できると考えてしまいがちですが、キリスト教は宗教です。イエス様のご復活があり、「イエス様こそ、神の子だ」と信じるのが信仰の中心です。

イエス様の生まれた日はいつなのか。実は分かっていません。聖書に「〇年□月△日にお生まれになった。」と一切書かれていません。四つの福音書でも、生誕物語はマタイによる福音書とルカによる福音書にあり、その記述もお生まれになった事実以外、重なる内容がありません。ヘロデ王の在位を考えると、紀元前四年以前にはお生まれになっていただろうと推測はできます。しかし何月何日まではやはりわかりません。

お誕生日が分らなくても、誕生をお祝いする日があると良いと考えるのが人のようで、325年に開かれた第一ニカイア公会議において、キリストの降誕を祝う日をいつにするか議論がなされていたそうです。いくつか候補があった中から、初期キリスト教は、キリストを太陽と結び付けて考えていたこと。古代ローマの宗教、ミトラ教の太陽神ミトラスを祝う日がローマ暦で12月25日(冬至)とされていたことなどから、この日に定着していったようです。

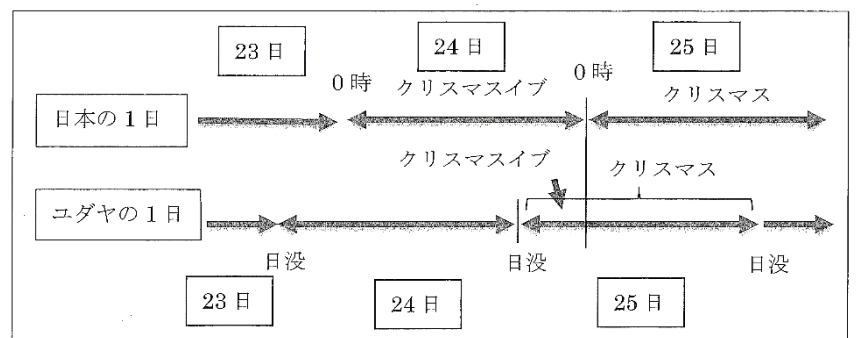
クリスマスイブとクリスマスの違いも微妙です。ユダヤの一日は日没から数えるので、現在の24日の日没後はユダヤでは25日になります。そこから深夜にかけてイブ。そしてクリスマスになります。使っている暦が違うので、なかなか理解が難しい所です。イブはクリスマスの夜のことになります。

聖ステパノ学園小学校では、12月16日のクリスマス祝会に向けての活動が始まりました。

小学校1・2年生が楽器の演奏も入れてクリスマスの歌を歌います。小学校3・6年生はイエス様のご降誕の様子を劇にした聖劇の練習をしています。今年の祝会は、久しぶりに保護者にも観ていただけるように準備をしています。インフルエンザの流行も普段より早い状態なので、幸か不幸か当日には万全の状態で臨むことができる可能性が高いです。

劇では、自分ではない役を演じることがができます。

コロナ禍では、劇をすることができず、演じ



ることの楽しさを味わうことができませんでした。先輩から引き継がれていたステパノのクリスマスも、途切れてしまい受け継ぐことができませんでした。

しかしここから新しいステパノのクリスマス子どもたちと一緒に、創っていきたいと願っています。

マラキ書 第3章 20節にはこう記されています。

「わが名を畏れ敬うあなたたちには義の太陽が昇る。その翼にはいやす力がある。」

児童・生徒・保護者・教職員、聖ステパノ学園に関わる全員でクリスマスをお祝いできる喜びを、ぜひ分かち合いましょう。



クリスマスだからこそ

聖書科 咲間 直人

世間では、クリスマスというとプレゼントを贈り合う日という認識が一般的かと思っています。大人から子どもにだけではなく、恋人同士でということもあるかもしれません。ただ、「では何故プレゼントを贈るのか」という理由を知らない、段々とその行為は、「クリスマスだからプレゼントを贈る」という理由があるようであまり全くない、何とも不思議な習慣になってしまします。そうなるプレゼントを贈るという習慣が、負担に思う人も出てくるかもしれません。「去年はこれをあげたし、その前はあれを…」と考える事に疲れて、いつかは相手に直接「何が欲しい?」と聞いてそれを贈ることもあると思います。確かに自分にとっては考える負担は減りますし、相手にとっても望むものが贈られるので両者にとつてありがたいことです。でも、それは別に「クリスマス」でなくてもできることです。クリスマスだからこそ、大切にしたいものがあります。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

ヨハネによる福音書 第3章16節

クリスマスには贈りものをする習慣が根付

いていますが、最初の贈りものとは人から人へ渡されたものではありません。それは神様から私達に向けて贈られたものです。それが「愛」です。その証となる出来事が主なるイエス・キリストのご降誕でした。クリスマスは「キリスト (Christ) のミサ (mass)」を意味し、主のご降誕をお祝いする日です。だからこそ、クリスマスの時期になると神様が私達に向けられた愛と、それゆえに御子であるイエス・キリストを私達に与えてくださったという事実を改めて思い起こします。そして、イエス様が「わたくしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」とおっしゃった言葉に、クリスマスに大切にしたい心が込められています。

今はイエス様の到来、ご降誕を待ち望む降臨節 (アドベント) です。この時をどのように過ごすのか。勿論イエス様のご降誕をお祝いする日を楽しみにし、飾りつけをしなが準備をしていくのもいいと思います。しかし、それだけでなく、自分自身に対しては神様の愛が注がれていること、クリスマスという出来事に込められた意味を思い出し、イエス様に倣って受けることよりも与えること、自分以外の誰かに心を開けることを大切にしていければと思います。その心は時に、贈りものとして目に見える形になります。だからこそ、それは、別に高価である必要もなければ、見栄えのする物である必要もありません。大事なのはどれだけ相手に自らが心を向けたかということです。その結果が、手紙であれ、手料理であれ、一言の言葉であれ、

相手が望むことを本気で考え、思つての行動であればそこには愛があります。

二千年以上前、絶望や貧困、弱い立場にある人々にとって、救い主であるイエス様のご降誕は、まさに希望の光でした。現代には、人が作り出した様々な光が溢れ、日々の生活を明るく照らしています。光は、時には闇夜を照らす街灯のように私達を安心にしてくれます。しかし、時に戦禍の中で争いの火のように、私達を孤独にさせます。そんな私達が作り上げた光の中にあつて、イエス様はこの世を照らす真の光です。神様が示された愛に溢れたその光は今も失われていません。まずは自分の身近な人に対して改めて心を開けると共に、世界中の弱い立場にある人々のことも覚え、相手の隣人となり、自分がしてほしいことを求めるよりも与えることを大切に、この降臨節を過ごしていければと思います。そしてクリスマスには立場や人種に関係なく一人でも多くの方々と一緒に、主のご降誕という希望と喜びの出来事をお祝いできることを心よりお祈りしています。



クリスマスの本当の贈りもの

総務 新庄 主来

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそメシアである。」

ルカによる福音書2章11節

二千年前、ユダヤ民族はローマによって支配されていました。ある時、皇帝の命令により、人々は住民登録のため自分の生まれ故郷に戻らされることになります。ヨセフも自分の故郷、ベツレヘムに向かいましたが、そこに着くと身重であったマリヤは男の子を産みます。しかし、多くの人が一時に戻って来たため、彼らの泊まる宿はなく、家畜小屋での出産となり、生まれた初子のベビーベツトはそこにあつた飼葉おけでした。

実は、この男の子こそ全人類の救い主として、この地にご降誕してくださったイエス様なのです。

イエス様は王の王、主の主であられる方なのに、宮殿の豪華なベツトではなく、臭く汚れた家畜の餌入れに寝かされました。日本人の私たちは飼葉おけと聞くと、木造の物を思い浮かべますが、ユダヤでは木は貴重なものなので、多くは石を用いて造られていました。石をくり貫いたもの、それは、石棺を連想させるものです。イエス様はその誕生から、す

でにこの地に来られた目的が十字架の死にあったことが、ここに暗示されていたのです。

「マリヤは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

マタイによる福音書1章21節

天地創造の後、人類の祖であるアダムが神から墮落したことにより、人類は罪の(的を外した)道を歩む者となっていましたと聖書は語ります。そんな私たちが、再び正しい道に歩むことができるように神であられる方が、私たちと同じ人間の姿となりこの地に来てくださったのです。

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。」

フィリピの信徒への手紙2章6〜7節

飼葉おけに寝かされ、その最期は十字架にて処刑―あまりにも悲惨な人生です。しかし、「愛」とは、他人のためにどれだけ犠牲できるか、その自己犠牲の大きさにより測られると言われます。聖書は、イエス様は十字架上の激しい苦しみの後を見て満足したと語っています。その苦しみを通して人類の罪の贖いが成され、人々が救われるなら…。

イエス様のご生涯を通して、私たちに對する神の愛の深さを改めて覚えます。

正に神は愛です。

この世の中は、クリスマスシーズンになると、ツリーの飾り付けや、クリスマスソングが巷に流れ、人々はプレゼントを交換しあつたりと、嬉しいことが山ほどあります。しかし、本当に嬉しくて、永遠に変わることのない価値あるプレゼントは、父なる神様から私たちに贈られた―主イエス様―なのです。



「小学校」

小学校1～5年生は秋の遠足、小学校6年生は、修学旅行に行ってきました。各学年の感想をご紹介します。

○小1・小2 @平塚総合公園

「きのう、あきのえんそくにいきました。すべりだいがたのしかったです。ひよこがかわいかったです。うさぎがきもちよかったです。もるもつとがかわいかったです。」

(K・M)

「インコがいっぱいいました。いろいろいてきれいでした。」

(S・T)

「きのう、えんそくにいきました。七めんちよう、モルモットをみました。かわいかったです。」

(K・S)



○小3～小5 @雪印メグミルク工場&

神奈川県総合防災センター

秋のえんそくに行きました。三年生、四年生、五年生といっしょにかしきりバスで、メグミルクと防災センターに行きました。

メグミルクでは、牛乳のつくり方や、牛乳をつくっているところを見たり、じっさいいんしよくたいけんをすることもできました。とてもおいしかったです。

防災センターでは、地震震度七をたいけんしたり、風速たいけん、煙迷路たんけん、テレビをみたりしました。

(H・G)

秋の遠足でした。まずバスに乗って雪印メグミルク工場に行きました。D・O・I・eやホイップクリームやヨーグルトいろんな牛乳を使っているのかと思いました。次はバスで神奈川県総合防災センターに行きました。地震体験や風の体験や煙の迷路をやった楽しかったです。風の体験は風力三十(メートルで)かみの毛ぼさばさでした。またいつか行きたいです。

(U・A)

遠足でメグミルクに行って牛乳のつくりかたを見て終わりにのむヨーグルトをのませてもらいました。そのあとおみやげでけしゴムとリングジュースをもらって、おべんとうとおかしを食べました。地しんたいけんでしんど7まで行ってすごかったです。そして、あのだいけんですつと口をあけてやったらめつちや口がばさばさになりました。

(K・F)

今日は、遠足に行きました。牛乳をつくるのを見ました。そのあとバスで、防災センターに行きました。じしんのたいけんを

しました。がたがたゆれました。じしんのときは、頭をかくして、つくえの下に入ります。じしんは、こわいです。」(Y・M)



○小6 @京都

《1日目》

今日は初の修学旅行でした。行く前に思っていた感じとは全く違って、楽しかったです。特に銀閣です。なぜなら僕は銀閣が好きで、わびさびを象徴したたて物を見るのが楽しかったですからです。実際に見たらすごくきれいでした。もちろん金閣もきれいでした。

明日は二条城、三十三間堂、京都タワーを見に行くのが楽しみです。

(T・G)

《2日目》

今日は二条城に行きました！ぼくは徳川家康が好きなので、見れてよかったです！

三十三間堂には、仏像がたくさんあって、すごかったです。京都タワーの展望台からの景色がきれいで、とてもよかったです。

(S・Z)



「中学校」中学1、2年生の遠足は、「東芝未来科学館」の見学と、劇団四季「アラジン」の観劇に行きました。

中学2年S・H

今日は秋の遠足でした。待ちに待ってました。東芝未来科学館もアラジンのミュージカルも、どちらも僕は初めてでした。

新しく楽しい場所を知れて嬉しかったです。

東芝未来科学館で一番楽しかったのは「ビルタッチ」と「超電動体験」です。どちらも面白くて、もっともつとやりたかったです。今度は自分で行ってみようと思いました。

アラジンでは、劇団四季の舞台に圧倒されました。絵本やアニメでは知っていたアラジンのお話ですが、生の音、歌、声は体にゾクゾク響いて、その世界に入り込んだような気持ちでした。オリジナルキャラが出ていて、そういうのを見つけるのも面白かったです。

グループ活動では、班長をサポートする動きができました。充実した遠足でした。



中学2年H・K

今日は、中1と中2で遠足に行きました。最初はレリーフで班に分かれました。朝の8時15分ぐらいに学校を出て駅に向かいました。電車で川崎に行つて、最初に着いたのは東芝未来科学館という科学を学べる場所です。

電気抵抗や磁力、からくり人形の作り方など色々見て、科学はこんな昔からあるんだなと思いました。

お昼になって電車で新橋に行き、お弁当を食べ

ました。初めて自分1人で作ってみたけどおいしかったです。

食べ終わって新橋の劇団四季「海」というところで「アラジン」を見ました。動きや演技などすごクリアルで、原作のクオリティが高くてとてもおもしろかったです。

中学3年生は修学旅行で広島を訪れ、平和の大切さを改めて考えました。

中学3年A・K

31日からずっと楽しみにしていた修学旅行がありました。まずは先生にお別れをして小田原駅へ向かいました。この時からすでに楽しみでした。小田原から名古屋に向かう途中、晴れ間が見えました。名古屋で待機し、10時の新幹線で広島に向かいました。YとUNOをして楽しかったです。着いたら目的のホテルへと向かい、お昼を食べました。おにぎりがおいしかったです。食べた後、再度広島駅に向かいました。市電に乗り、原爆ドームへと向かいました。修学旅行の人たちが多かったので、平和記念資料館に入るのに時間がかかってしまい、みんなとはぐれてしまいました。そして千羽鶴をお捧げして、広島復活教会に行き、礼拝をしました。いつもの礼拝とは様式が違いました。そしてホテルに戻って夕飯を食べました。ハンバーグがおいしかったです。

2日目、広島駅から広島に向かいました。すぐくこじんまりとした駅でした。そこからフェリーに乗り、宮島へと向かいました。この日もお天気で良かったです。着いたら厳島神社に向かいました。やはり実物は写真と全然違いました。そして宝物館に行きました。その後、広島五重の塔の

隣の建物に向かいました。とても風通しが良く、涼しかったです。そしてお昼です。カツや唐揚げがとてもおいしかったです。その後、お土産を買って広島駅へと向かい、お好み焼き体験ができるOKOSTAに向かいました。全ソース合わせたらおいしかったです。そして、2度目のお土産を買いました。その後、コンビニに寄りました。その日の夜は、おつりの計算があつて、とても大変でした。計算の後、男子仲間たちと一緒にUNOをやりました。とても楽しかったです。

いよいよ最終日です。まず、いつも通りに起床して、朝食をとってから学校に帰る準備をし、ホテルを出発しました。その後、広島から岡山に向かい、姫路駅へと向かいました。降車後、姫路城に向かったら、着いた時は小さく感じましたが、いざ近づくとき大きく感じました。とても入り組んでいて、お城にはいるのに時間がかかりました。姫路城の階段は急でしたが、頂上の眺めは最高でした。お昼におでん定食を食べて、大磯まで一直線で帰りました。前半は起きている人が多かったのですが、後半の新幹線では寝ている人が多かったです。そして小田原に着くと、馴染みのある東海道線に乗りました。夕焼けがとてもきれいでした。

とても充実した3日間となり、とても楽しかったです。また行きたいなあ…。





先号に続き、創立七十周年記念式典から、前理事長・前学園長の小川正夫先生のご講演の一部をお届けします。

「皆さんと一緒には聖ステパノ学園の今の姿を見ることが出来るのは、これまでの皆さんの温かいご理解、ご支援、ご協力をいただいていたお陰です。心から感謝申し上げます。いつまでも記憶に留め、決して忘れることはありません。私は、二〇二二年七月末をもって満二十五年を超える本校での仕事に幕を閉じましたが、その間に多くの方々との素晴らしい出会いがあり、たくさんの方々の貴重な経験をさせて頂いたことも懐かしくなります。教職を去って一年、近所の子ども達に会おうと、懐かしく、いつも見惚れてしまいます。」

「一九四八年、澤田美喜が四十八歳の時、日本はアメリカ軍の占領支配下の不安定な社会情勢にあり、望まれずに生まれてきた混血児のために、乳児院エリザベス・サンダース・ホームを設立しましたが、当時の社会の眼差しは冷たく、様々な批判や妨害がありました。澤田美喜はこんな呟きを残しています。『私は戦争には絶対反対。今、私は戦争の後始末をしているのよ。子ども達には罪はない。悪い子なんていない。様々な事情で育てることができず、手放さなければならぬ子が目の前

にいるの。誰かが手を差し伸べなければならぬの。だから、その（誰か）に私がなるの。どのような経過があるにしても、神様から与えられた命は尊いの。神様が人を創られて、これで良しと言われたのだから、自分勝手に自分の価値を見積もってはいけないの。（中略）そして、生涯をその子ども達の成長のために捧げたいの。』十五万人とも言われる混血児が就学年齢に達した時、政府は公立小学校への受け入れを検討しましたが、澤田美喜は敢えて、教職員がキリスト教の精神、信仰と希望と愛を心の根底に、使命感を持って子ども達と関わることで、子ども達の失われかけた将来を取り戻し、成長させたいと願いました。小さな働きであつても、大きな愛を込めた働きのかたまりとして、キリスト教を旨とする本校の設立を、五十三歳の時に決心したのです」

「近年、本校の姿は大きく変わり、特色ある教育と働きが注目評価されていますが、物事には必ず始まりがあり、礎となる精神があります。本校の礎に置かれている心は、社会的に弱い立場にある子、支えを必要としている子、手のかかる子、どのような立場に置かれている子に対しても、神様は一人ひとりに目を留め、愛しておられる。どの子も神様から私達に預けられた大切な子だと考えていた澤田美喜の創立の願いを謙虚に思い出し、その周囲で協力していた多くの方々の想いを忘れずにしっかりと心に置くことが大切です」

STEPHEN'S NEWS

第二十八回 やまどり杯 小学生柔道大会
敢闘賞 小六 I・Y

実用英語技能検定

四級合格 中二 H・U

先月号、そして今月号と発行が滞ってしまい、大変申し訳ありません。

【編集後記】

朝、布団から出るのが億劫になるほどの冷え込みが続いています。毎日家を出る時に「寒いなあ」とぼそっとつぶやいてしまう日々ですが、そんな中でも学園は子どもたちの温かい笑顔であふれています。ぽかぽかと団欒、まるでこたつに入っているようです。（り）

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

校長 佐藤 紀明

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇二三年十二月二十二日（金）発行第282号